

# 愛知県感染症情報

平成 14 年第 18 週 ( 5 月第 1 週 )

## < コメント >

今週は連休の影響もあり報告数は全体的に減少していますが、麻疹は引き続き流行中ですので注意してください。

麻疹の予防方法については、愛知県衛生研究所のホームページ ( <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/> ) をご覧ください。

## < 定点の先生方からのコメント >

### ● 尾張西部地区

- ・ 麻疹 2 名 両者共に予防接種未接種

( 一宮市 後藤小児科医院 )

- ・ O1 1 歳女 1 名

O20 3 歳男 1 名

修飾麻疹\*1 名

( 尾西市 城後小児科 )

\* 修飾麻疹：乳幼児期に麻疹ワクチンの接種既往のあるものが学童期に軽い麻疹に罹患すること。

- ・ 4 歳児で水痘が流行っています。病原大腸菌 O6 1 人 ( 5 歳男 )

( 犬山市 武内医院 )

- ・ 麻疹が多発しています。ワクチン未接種に多い。伝染性紅斑も多いようです。

( 岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック )

- ・ 1 歳 1 ヶ月男 ロタウイルス ( + ) でした。

( 春日町 丹羽医院 )

### ● 尾張東部地区

- ・ 手足口病が少しみられます。

咽頭結膜炎がでています。

( 瀬戸市 津田こどもクリニック )

- ・ 麻疹 3 歳男 ( 卵アレルギーのため、ワクチン未接種 )

流行性耳下腺炎、水痘、小流行続いています。

マイコプラズマ感染症もまだみられます。

( 尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院 )

- ・ 麻疹つづいています。

(春日井市 朝宮こどもクリニック)

- ・ ウイルスは不明ですが咽頭炎、気管支肺炎例が多いようです。  
マイコプラズマもちらほられます。

(小牧市 志水こどもクリニック)

- ・ ウイルス性と思われる肺炎あり。

(小牧市 小牧市民病院)

- 西三河地区

- ・ 水痘、マイコプラズマ肺炎流行っている。

(豊田市 医療法人やふそ小児科)

- ・ カポジ水痘様皮膚炎\*1名

(岡崎市 医療法人深田小児科)

\*カポジ水痘様皮膚炎：単純ヘルペスウイルスが経皮感染して発症するもので基礎疾患にアトピー性皮膚疾患を伴う。10日～1ヶ月で治癒するが、細菌感染を伴いやすくまれに重篤化する事があると言われている。

- ・ 12歳男 カンピロバクター

1歳女 病原性大腸菌O1 VT(-)

(岡崎市 にいのみ小児科)

- ・ 麻疹 7歳 ワクチン接種済みで軽症

(刈谷市 田和小児科医院)

- ・ 麻疹 3歳女 妹からの感染(ワクチン未接種)

(西尾市 やすい小児科)

- 東三河地区

- ・ 流行性耳下腺炎 園児1名、水痘 牟呂町1名、麻疹 園児1名

(豊橋市 キンバラ小児科)

- ・ ムンプス例は豊橋地区の児です。

(田原町 かわせ小児科)

#### < 1～3類感染症の発生状況 >

報告はありません。

#### < 全数把握の4類感染症の発生状況 >

急性ウイルス性肝炎(A型)患者1名

## 第 15 週（14 年 4 月 8 日～4 月 14 日）の 4 類感染症の全国状況

インフルエンザの定点当たり報告数は 1 を切り、ほとんどの地域で流行はほぼ終息したと考えられる。

感染性胃腸炎は鳥取県、宮崎県、石川県、山口県で定点当たり報告数が 10 を超えている（感染性胃腸炎の病原体については「病原体情報」参照）。水痘は沖縄県で定点当たり 4.5 の報告がある。麻疹は全国的にみると定点当たり報告数は例年にくらべ低い値となっているが、愛知県で第 15 週に 119 例の報告があった（麻疹に関する詳しい情報は、「注目すべき感染症」参照）。流行性耳下腺炎は宮崎県で定点当たり 5.4、山形県で 4.2 と報告が多くなっている。流行性角結膜炎は過去 5 年間の同時期と比較して定点当たり報告数がやや多くなっており、愛媛県で 4.0 の報告がある。

（Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供）  
詳細は感染症情報センターのホームページ（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）の感染症発生動向調査週報をご覧ください。

連休が終わり日差しが強くなって校庭の木陰のベンチが賑やかになりました。木漏れ日に学生諸君の茶髪やら金髪やらが輝いて、これが日本かしらと思ったりします（でも聞こえてくるのは典型的な名古屋弁だったりして）。

いつも貴重な情報を有難うございます。

4月後半のまとめをお送りします。

1. 名古屋地区：麻疹が全市的に流行中で要入院例が目立っています。予防接種の重要性のキャンペーンに努めたく思います（第一日赤有吉先生、第二日赤岩佐先生；小児、成人の麻疹も多い、三菱病院岩間先生、中京病院柴田先生）。他に第一日赤有吉先生からは感染性胃腸炎、EBウイルス感染症、川崎病、仮性クル-ブ、千種区今枝先生からは感染性胃腸炎時々あり母親の罹患例あり、三菱・岩間先生からは急性咽頭炎＋中耳炎、A型インフルエンザ散発、気管支肺炎、病原性大腸菌EPEC O25の感染性腸炎、中京・柴田先生からは手足口病散発中とのお手紙をいただきました。

2. 尾張地区：犬山市武内先生からは感染性胃腸炎がやや多く、水痘と手足口病が散発中、江南市昭和病院西村先生からは麻疹による入院が目立つ、常滑市民病院上田先生からはムンプス（髄膜炎合併例あり）、ロタウイルス腸炎（脱水による入院例あり）、麻疹（重症麻疹の入院目立つ）、細菌性腸炎の入院例あり、伝染性単核症、溶連菌感染症が目立つとのお手紙をいただきました。

3. 三河地区：トヨタ病院木戸先生からは麻疹散見、扁桃腺炎と気管支炎が少し増加、岡崎市民病院系洲先生からは今だにインフルエンザ散見（家族内発生）、知立市近藤先生からは百日咳 1 例、麻疹 1 例、ムンプスと水痘 1 例、刈谷市田和先生からは感染性胃腸炎が少し目立ち（ロタウイルス陽性例もあり）、水痘たまにあり、碧南市永井先生からは麻疹と水痘が散発中、豊橋市宮澤先生からはマイコプラズマ肺炎、水痘が散発中で麻疹が 1 例ありとのお手紙をいただきました。有難うございました。

平成 14 年 5 月 9 日

WHO 疫学週報抜粋抄訳

愛知県衛生研究所企画情報部 (文責 磯村)

2002 年 4 月 12 日号 (77 巻 15 号)

新生児破傷風：ナムビア (注 1。ナムビア：南アフリカ共和国の北。アンゴラとボツワナの隣でカラハリ砂漠、ナビブ砂漠が国土の大半を占めている。注 2。途上国における新生児破傷風対策：妊婦定期検診の際の破傷風トキソイド 2 回接種、清潔な分娩、新生児に対する D P T 3 混接種の普及、特に妊婦に対する破傷風トキソイド 2 回接種が新生児破傷風対策として有力な手段である)。2000 年における状況のまとめ。新生児破傷風の届出は千出生当たり 0.3、清潔な出産は 44%、破傷風トキソイド 2 回接種妊婦：72%、D P T 接種乳児 70%。破傷風トキソイド 2 回接種済のカ - ド保有率は母親で 86%、15 - 49 歳女性で 77%。今後の接種普及計画の進展だけでなく、発病情況の調査や普及にかかわる問題点の調査が必要である。

インフルエンザ (02 年 3 月)。ブルガリア：A (H3N2)、ユ - ゴスラビア：B 型、ドイツ：A 型から B 型、ル - マニア：A (H3N2)、スイス：A 型と B 型。

4 月 5 日 - 11 日届出。コレラ：ソマリア、黄熱：米合衆国 (輸入例)。

2002 年 4 月 19 日号 (77 巻 16 号)

リンパ系フィラリア症：リンパ系フィラリア症は現在世界の 80 カ国で流行、1 千百万人が感染の危険にさらされていて 2001 年末で 25,479,136 例が 22 カ国で集団薬剤投与を受けていて、これは 2000 年末の 12 カ国、3 百万例から激増といえる。22 カ国のうち最も著明なのはバングラデシュ、インド、ナイジェリア、ミャンマ - である (注：発生地の世界地図あり。熱帯アジア、中国、熱帯アフリカ、ブラジル地区に集中)。本報は各地区の状況のまとめと各国の対策がのべられている。

インフルエンザ：02 年 4 月。イラン：今期同国では大流行した。A 型と B 型の流行があり B 型 (北京類似株) が分離された。韓国：流行は下火。A (H1N1) 分離。

4 月 12 日 - 18 日報告：なし。









